

S001-21

Zoom meeting A : 11/1 PM2 (15:45-18:15)

16:30~16:45

学会誌としての Earth, Planets and Space 誌

#臼井 洋一¹⁾, 山谷 祐介²⁾, 加藤 雄人³⁾

¹⁾ 海洋研究開発機構, ²⁾ 産総研, ³⁾ 東北大・理・地球物理

SGEPSS Journal Earth, Planets and Space

#Yoichi Usui¹⁾, Yusuke Yamaya²⁾, Yuto Katoh³⁾

¹⁾JAMSTEC, ²⁾FREA, AIST, ³⁾Dept. Geophys., Grad. Sch. Sci., Tohoku Univ.

We will discuss the status and prospects of Earth, Planets and Space as the society journal.

Earth, Planets and Space (EPS) 誌は、Journal of Geomagnetism and Geoelectricity (JGG) 誌の後継誌として 1998 年に創刊された、SGEPSS の学会誌である。EPS 誌は JGG 誌に加え、日本地震学会が発行していた Journal of Physics of the Earth 誌を母体としており、さらに日本測地学会、日本火山学会、日本惑星科学会を加えた 5 学会により運営されている。共同運営であることに加え、学会誌であるとともに開かれた国際学術誌でもあることから EPS の課題は多面的だが、本発表では、特に SGEPSS との関りに焦点を当てる。SGEPSS 会員には EPS 誌の将来を決める力がある。EPS 誌の運営委員や編集委員の任期は数年であり、出版社との契約も 5 年毎の更新であるため、状況は想像以上に早く変化しうるので、身近な問題としてご議論いただきたい。

学会としては、EPS 誌が安定的に存続することが最も重要であろう。2019 年度以降、編集・運営・発行に要する金銭的成本は、5 学会による分担金と、Springer-Nature 社との契約に基づく論文掲載料 (APC) の定率還元で賄っている。これまでの両財源の割合は、おおむね 1:1 である。APC の還元総額は出版論文数に比例する。したがって、EPS 誌への論文出版を奨励することは学会としてもメリットがあると言える。なお 2014 年度以降、SGEPSS は分担金として年間 150 万円を拠出している。これらに加えて、2019 年度に科研費の研究成果公開促進費 (国際情報発信強化 (A)) が JpGU を代表として申請し採択され、2023 年度まで 5 年間の計画「日本の地球惑星科学共同体による PEPS 誌・EPS 誌の国際情報発信強化で相乗効果を上げる取組」を実施している。科研費を活用して、EPS 誌の国際的認知度をさらに高める取り組みを進めている。

学会誌の機能として、会員間のコミュニケーション促進がある。EPS 誌では、会員の個別の研究成果を掲載するとともに、秋学会・連合大会のセッションや、会員の関わるプロジェクトなどに基づいた特集号を発刊している [1]。特に特集号は、被引用回数など一般的な指標で見ると活発に閲覧されている。一方で、これらが特に SGEPSS の活性化にフィードバックされているかについては、雑誌の側から測ることが難しい。また、HP・ブログやコンテンツアラートを通じて最新情報を提供しているものの [2]、これも利用者からの声は見えずらい。SGEPSS からは EPS の運営に深くかかわる委員を常時 2 名以上選出しており、会員からのアイデア・意見は SGEPSS 運営委員会等に寄せることが出来るが、より簡単なチャンネルの設置も検討したい。

[1] <https://www.earth-planets-space.org/ja/specialissues>

[2] <https://www.earth-planets-space.org/ja/epsblog>